

10 礼文町のあゆみ

西 暦	年 号	月	おもなできごと
1685年	貞享2年		松前藩主の直領地として宗谷場所が開設され、利尻・礼文がその付属場所となる
1846年	弘化3年		青森県人柳谷万之助氏が尺忍において、移住民第1号として漁場開発にあたる
1869年	明治2年	8月	蝦夷地を北海道と改称し、11国86郡を設置。北見国礼文郡の名称が確立される
1873年	明治6年		宗谷支庁が廃止され留萌支庁の管轄となり、宗谷に宗谷・利尻・礼文を管轄する出張所が置かれる
1878年	明治11年	10月	29日 礼文郡に正式な村名として、神崎村・船泊村・香深村・尺忍村と定められる
1880年	明治13年		礼文郡香深村に戸長役場が開設され、香深村が開村する。初代戸長に大熊甚太夫氏が就任する
1884年	明治17年		汽船惠喜丸に利尻・礼文各村が補助を交付し、定期航海をさせる
1885年	明治18年	10月	日本郵船会社が小樽・稚内・利尻・礼文の定期航路を開航する
			香深郵便局が開局する
1886年	明治19年		香深・尺忍両村漁業組合、船泊・神崎両村漁業組合が結成される
1889年	明治22年	10月	18日 礼文小学校が開校される
1892年	明治25年	4月	香深村から船泊が分村し戸長役場を開設、初代戸長に北郷文次郎氏が就任する
			礼文小学校の分校として、船泊小学校が開校される
1893年	明治26年	10月	礼文小学校船泊分校上泊分教場が開校される
1894年	明治27年		香深井・尺忍・元地に礼文小学校分校が開校される
		1月	船泊郵便局が開局する
1898年	明治31年	5月	赤岩で山火が発生し大火となり、山林の大部分と部落住家34戸が焼失する
1899年	明治32年		天塩・利尻・礼文に海底電信線が敷設される
1902年	明治35年		香深・船泊両村が二級町村制を施行する
1903年	明治36年	2月	5日 入舟土場から出火し、礼文小学校が全焼する
1906年	明治39年	11月	19日 大備市街地で大火があり52戸が焼失する
1908年	明治41年		香深井から内路間の難所道路開削工事が5ヶ年をもって完成する
1909年	明治42年	3月	船泊消防組織が設立される
		9月	知床大火が発生、36戸が焼失する
1910年	明治43年	5月	会所前大火が発生、20戸が焼失する
1911年	明治44年	5月	12日 船泊山林で山火発生、20日にも再燃し殆どの山林を焼失する
		5月	16日 内路山林で山火発生、香深井まで延焼する
1914年	大正3年		香深市街に木管による私設水道が敷設される
1918年	大正7年		香深村に出資金5万5千円をもって、香深電灯株式会社が創立される
1919年	大正8年	5月	香深電灯株式会社が火力発電により香深村内（内路・起登臼・元地を除く）の住家等に電力供給を開始する。約1,000戸に電気が灯る
1923年	大正12年		香深村が一級町村制を施行する
			元地道路を開削し桃岩トンネルが完成する
1931年	昭和6年		香深から船泊間に乗合自動車の運行が開始される
1935年	昭和10年		稚内・利尻（鷺泊）・礼文（香深）の三角定期航路が開設される
1936年	昭和11年		香深水道配水管1,747mの敷設工事が完成する
1939年	昭和14年		大流氷が着岸し全島で海産物が被害を受ける
1941年	昭和16年		起登臼水力発電所が完成し、内路を除く香深村全村に送電が開始される
1946年	昭和21年		稚内・利礼航路の駅として、香深駅・船泊駅が開設される
1947年	昭和22年		内路部落に配電線工事が完了し、香深地区の部落全村に送電される
1948年	昭和23年	5月	9日 起登臼を中心に世界各国の観測班による金環日食観測が行われる

西 暦	年 号	月	おもなできごと
1948年	昭和23年		稚内から香深間に直通海底電信電話線（28 哩）が敷設される
1950年	昭和25年	8月	利尻島・礼文島一帯が道立自然公園に指定される
1951年	昭和26年		船泊電力利用共同組合が設立され、火力200KWの施設で電気事業が開始される
1954年	昭和29年	3月	船泊村で国民健康保険事業を実施し、直診施設の船泊国民健康保険病院が新設される
			礼文島の奇病と騒がれたエキノコックスが問題化し、小動物の本格的な退治が開始される
		7月	入舟市街地で大火が発生、礼文診療所や住家など56戸が焼失する
		8月	村立の香深医院が完成する
1955年	昭和30年	7月	会所前の宗谷バス車庫から出火し、住家など67戸が焼失する
		8月	香深村役場庁舎が全焼し、重要書類など多くが焼失する
1956年	昭和31年		町村合併促進法に基づき、香深村・船泊村が対等合併して礼文村となり、役場所在地を香深に、支所を船泊に置く。初代の礼文村長に向瀬貢三郎氏が就任する
		9月	礼文診療所が完成する
1957年	昭和32年	7月	23日 高松宮殿下・高松宮妃殿下がヘリコプターでご来島になられる
1959年	昭和34年	9月	1日 町制を施行し礼文町となる。初代町長に向瀬貢三郎氏が就任する
		9月	11日 桃岩一帯の野生植物群が北海道文化財に指定される
			船泊支所庁舎が新築される
1963年	昭和38年	7月	15日 義宮正仁親王殿下（常陸宮正仁親王殿下）が連絡船でご来島になられる
1965年	昭和40年	7月	22日 利尻・礼文道立自然公園が利尻・礼文国定公園に指定（昇格）される
		10月	広報れぶん創刊号が発行される
1966年	昭和41年	4月	母と子の家を活用し町立船泊保育所が開設され、入園児60名を受け入れる
1967年	昭和42年	4月	町章が決定される
			入舟の保健福祉館の内部に、町立香深保育所が開設され、入園児80名を受け入れる
		12月	会所前に町営公衆浴場香深湯が開設される
1968年	昭和43年	12月	陸上自衛隊礼文分屯地が設置される
1969年	昭和44年	12月	香深常設保育所が新築される
1970年	昭和45年	2月	東海岸線一帯に流氷が接岸する
		4月	フェリーボート第一宗谷丸（530t）が就航する
1971年	昭和46年	12月	柳谷誠三氏（医師）に名誉町民の称号が贈られる
1972年	昭和47年	8月	礼文町史が発行される
		11月	香深井にごみ焼却処理施設が完成する（事業費2,946万円）
1973年	昭和48年	4月	利尻礼文消防事務組合が発足する
1974年	昭和49年	1月	町立香深診療所が北海道に移管される
		9月	利尻・礼文・サロベツが全国27番目の国立公園の指定を受ける
1976年	昭和51年	3月	25年の歴史がある内路中学校が開校する
		10月	向瀬貢三郎前町長に名誉町民の称号が贈られる
1977年	昭和52年	6月	香深井に礼文町衛生センター（し尿処理施設 事業費41,381万円）が完成する
		12月	礼文町町民センター（離島開発センター）が完成する（3ヶ年継続事業）
1978年	昭和53年	4月	北海道立稚内高等学校礼文分校が開校され、一期生48名が入校する
		6月	礼文空港が開港され、日本近距離航空DHC-6型機（19人乗り）により礼文・稚内間が25分で結ばれる
1980年	昭和55年	4月	北海道立稚内高等学校礼文分校が礼文高等学校に昇格する
		7月	1日 礼文町開基100年記念式典が開催される